

熱中症で犠牲者を出さないために



久松 猛 議員

質問 本年は猛暑の中、熱中症患者が続発し、時事通信社の集計では梅雨明けした7月17日から8月30日までに熱中症がきっかけとみられる死亡者は全国で496人に上っている。こうした状況の中、行政は熱中症の被害を被りやすい高齢者で、独り暮らしあるいは高齢者のみの世帯、しかも低所得者においてクーラーの有無、使用頻度など、生活実態を調査する必要があると考

える。さらに、リスクの高い高齢者世帯などの安否確認のネットワークの構築や、あるいは生活困窮のためクーラーの設置困難な高齢者に対しての購入費補助金、あるいは貸付制度等の支援策が必要と考えるが、見解を伺う。

保健福祉部長 独居及び低所得高齢者のクーラーの有無、使用状況等生活実態調査については、市の訪問相談事業や宅配食事

サービス事業等により定期的に訪問し、熱中症予防やクーラー使用についての積極的な働きかけ、また身体状況変化等の確認を行っている。安否確認のネットワークについては、現在のふれあいネットワークの連携をより一層強めていくとともに、システム構築を検討したい。また、低所得者に対するクーラー設置の費用補助等については、環境省の有識者検討会において、熱中症対策としてクーラー設置に補助を出すことなどを盛り込んだ報告書がまとめられたことから、国の動向を見ながら対応してまいりたい。

(掲載以外の質問事項)
・ 国税減免の「処理基準」策定についての県の助言に対する市の対応について
・ 主な公園への高齢者用健康遊具の設置について



流入河川の浚渫について



藤川富雄 議員

質問 去る8月18日、桜川の現状をボートの上から観察し、水深も計測した。河口入口は2mの深さがあるものの、河口から200m位の中央部分は1m20cm、両岸は50cmで人が立てる程の水深であり、ヘドロが固まっている状況であった。橋の下は流木が流れず詰まっており、特に勾橋の下の杭は船が転覆する危険がある。船人が行き交う桜川にするためには中央部分だけでも2mにする必要があることから、浚渫の状況について伺う。

建設部長 桜川は治水対策として護岸工事の改修が完了している。しかし、議員ご指摘のとおり、下流部においては土砂が堆積し、水深が非常に浅くなっている状況である。この状況は、台風等の降雨時に水位上昇の大きな要因の1つになることも考えられることから、治水対策の更なる強化

を図る必要がある。また、安心・安全なまちづくり、霞ヶ浦浄化、さらには水辺環境の活用といった観光的視点からも、桜川の浚渫は重要な課題である。こうしたことから、去る8月12日、平成23年度の茨城県の手算編成にあたり、桜川の早期浚渫の実施について、市長より県知事に直接要望書を提出している。また、勾橋下の杭については、茨城県と連絡を取り合い、早急に撤去等の対応を行いたい。

(掲載以外の質問事項)
・ 霞ヶ浦の浄化対策について



桜川

手話通訳者について

耳の不自由な方が本会議の傍聴を希望される場合には、手話通訳者の派遣を依頼いたします。

ご利用の際には、少なくとも一週間前までに議会事務局へお申し込みください。

議会を傍聴してみませんか

インターネットの場合は、「土浦市議会」と入力して検索してください。「//各課ホームページ//土浦市公式ホームページ」→「傍聴」で詳しくお知らせしております。

●電話 029(826)1111 内線 2277
●FAX 029(826)3379